



Title	目で見るWHO 第84号 表紙・目次等
Author(s)	松浦, 成昭
Citation	目で見るWHO. 2023, 84, p. 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/92348
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2023 春号 
No.84

Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人
日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	松浦 成昭
P2	巻頭特集	
	妊産婦の健康	松井 三明
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 日本国際保健医療学会ランチョンセミナー	柳谷 祐樹
	2. TICAD8サイドイベント:	金子 聡
	「母子健康手帳と情報のデジタル化について」	川原 尚行
P14	NGO・団体紹介	
	コミュニティ×デジタルによる「医療が届く仕組みづくり」への挑戦	任 喜史
P16	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 聖路加国際大学大学院 国際看護学教室	大田 えりか
	2. 神戸大学大学院保健学研究科	中澤 港
P20	留學生日記	
	タイで学ぶ公衆衛生、アジア・アフリカ出身の友人達、そして、タイでの暮らし	高崎 映子
P22	WHO職員日記	
	看護を通して世界で働く	谷水 亜衣
P24	WHOニュース 11月／12月／1月	林 正幸
		渡部 雄一
P30	関西グローバルヘルス(KGH)の集い	
	オンラインセミナー第6弾 第1回:外国人医療は人権です	加藤 美寿季
	第2回:当事者主体の取り組み	山田 絵里
P32	書籍紹介コーナー	安田 直史
		小笠原 理恵
P33	International Days (健康関連の国際デー)	
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	WHOの地域事務局と加盟国	
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ／世界保健デー	吉川 健太郎
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪国際がんセンター 総長
松浦 成昭

がんは世界的な問題

我が国ではがんで亡くなる人が圧倒的に多く、死因の約30%を占めており、増加の一途をたっています。一方、世界的には感染症がまだまだ多いですし、戦争・事故など外傷で命を落とす人も多いせいか、世界の健康でがんのことが取り上げられることは比較的少ないように思われます。しかし、最近の統計では世界でもがんで亡くなる人は着実に増加しています。

Lancetによると世界で最も多い死因は虚血性心疾患（死因の16%）で、脳卒中（11%）、慢性閉塞性肺疾患（6%）、肺炎（5%）、母児の障害（4%）と続き、6番目が肺がん（3%）ですが¹、日本の統計のようにがんを一まとめにすると死因の17%を占め、最多死因になります。さらに死亡者の増加率もトップであり直近10年間で25.4%

増えています。

以前は欧米・日本など先進国にがんが多いというイメージがありましたが、今や図のようにがんは世界中で多発しており、アジア、南アメリカのがん罹患は欧米と変わりませんし、アフリカでも増加傾向が著明です。

WHOはタバコに加えて、紫外線・大気汚染などの環境、アルコール・食事因子、肥満、感染症をがんの要因としており、これらの因子は世界共通と考えられます。

「目で見えるWHO」でも今後、がんの話題も時々取り上げ、真剣な議論を促していきたいと思います。

2023年4月

1. GBD 2017 Causes of Death Collaborators. Global, regional, and national age-sex-specific mortality for 282 causes of death in 195 countries and territories, 1980-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018; 392(10159):1736-1788.

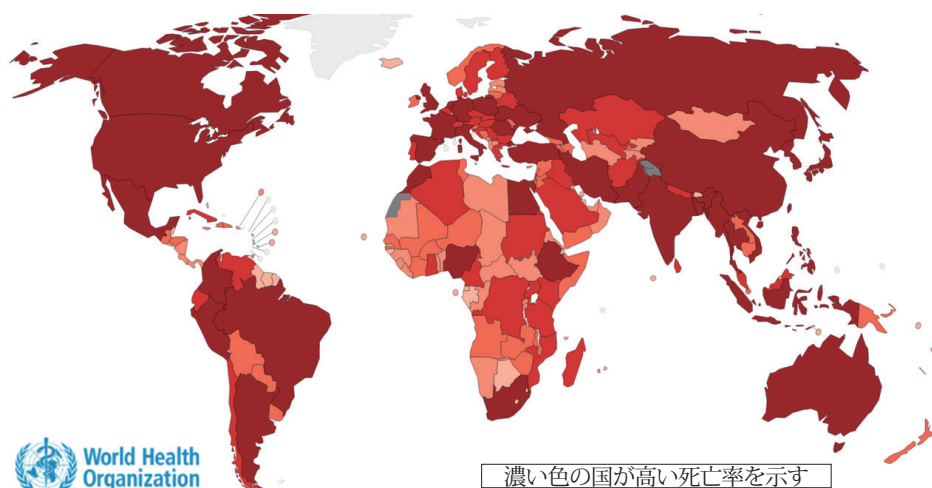


図 世界各国のがん死亡率（2020年）WHO: Global Cancer Observatory より